

## 6 環境の保全と創造のための基盤づくり

### 6-1 環境情報の総合的な収集・提供体制の確立

#### 1 環境情報センター(富士山科学研究所)

富士山科学研究所の環境情報センターは、富士山の自然や地域の環境についての情報を提供しています。

本センターでは、自然科学・環境に関する図書・DVD等を年々充実させていることに加え、富士山に関する資料の充実を図っています。さらに「News Letter」「メールマガジン」の発行等により、研究所の各種活動の紹介も行っています。



環境情報センター

#### 環境情報センター施設概要

- 閲覧時間 午前9時～午後5時(休館日:年末年始・蔵書点検期間・電気設備点検・雪による臨時休館)
- 図書閲覧コーナー 図書の閲覧、調査研究ができます。図書は館外貸出も受けられます。また、直接来所しなくても、最寄りの図書館を通して研究所の資料の検索・貸出ができます。
- DVD(ビデオ)コーナー 自然環境に関するDVD等を視聴ができます。
- パソコンコーナー 自然環境情報の検索ができます。
- バードウォッチングコーナー・ブラウジングコーナー 野鳥の観察や、雑誌の閲覧ができます。

#### 令和2年度発行「ニューズレター」



環境情報センター蔵書数等 (R3. 3. 31 現在)

図書	和書	23,585 冊
	洋書	517 冊
	合計	24,102 冊
AV 資料	ビデオ	584 点
	DVD	265 点
	CD-ROM	337 点
	合計	1,186 点
逐次刊行物	和洋雑誌	754 タイトル
その他	地図等	203 点

令和 2 年度利用実績

環境情報センター利用者数		979 人	
図書個人貸出	人数	286 人	
	図書貸出数	767 冊	
	AV 貸出数	8 本	
図書相互貸出	貸出	件数	3 件
		冊数	3 冊
	借受	件数	1 件
		冊数	1 冊
図書団体貸出	件数	10 件	
	冊数	217 冊	
AV 利用	人数	利用中止	
	本数	利用中止	
レファレンス (調査相談)		24 件	
学習用 PC 「しえん君」 利用人数 (H22. 10 から提供)		利用中止	

なお、環境教室等の参加者を含む富士山科学研究所全体の来館者数は次のとおりです。

富士山科学研究所来館者数 (令和 2 年度)

区 分	4~6 月	7~9 月	10~12 月	1~3 月	計
一 般	339 人	2,153 人	1,225 人	867 人	4,586 人
団 体	39 人	672 人	1,740 人	0 人	2,451 人
計	378 人	2,825 人	2,965 人	869 人	7,035 人

## 2 提供体制の確立 (林政総務課、環境・エネルギー政策課、自然共生推進課)

### (1) 県ホームページ

県では、環境保全活動を広めていくため、県ホームページに広く情報提供しています。ここでは、「やまなしの森林」「やまなしの環境」「やまなし水政策ビジョン」の3つのページを紹介します。

## ①『やまなしの森林』

山梨県の森林・林業に関する計画・イベント情報など、次の項目ごとに構成しています。

**やまなし森林整備・林業成長産業化推進プラン**

県では、森林・林業・木材産業を取り巻く情勢の変化等に対応し、森林資源の有効活用による林業の成長産業化を実現するとともに、県民の暮らしを支え、様々な恩恵をもたらす森林の公益的機能の強化を図るため、新たに「やまなし森林整備・林業成長産業化推進プラン」を令和2年3月に策定しました。

このプランは、山梨県総合計画で定めた施策の方向性を踏まえ、本県の森林・林業・木材産業が目指す将来像を描いた上で、「森林の公益機能の強化」と「林業の成長産業化の推進」を2本の柱とし、取り組みの基本方針と施策の展開を示しています。

**リーフレット「やまなしの森林」**

山梨県の森林・林業・木材産業の概要を紹介するリーフレット「やまなしの森林」を掲載しています。

**関連する計画等**

山梨県が定めた森林に関連する計画や方針等を紹介しています。

- ・地域森林計画
- ・県有林管理計画
- ・森林セラピー推進指針
- ・山梨県緑化計画

**やまなし森のイベント情報**

「森林環境教育」や「木育」など森に関するさまざまなイベントを紹介しています。

**森林公園だより（県民の森、武田の杜、金川の森）**

森林と親んでもらう森林公園の紹介と活動を紹介します。

**森林文化の森**

人と森林との関わり合いを実現する場所、自然への回帰を目指す場所として整備計画をまとめました。

「森林文化の森」というものが、何を目的とし、何をしているのかをお伝えしています。

**やまなし森づくりコミッション**

森づくり活動フィールド・森林づくりイベント・指導者などの紹介や、活動計画や企画の提案など、森づくり活動を様々な形で支援します。

**やまなしで過ごす「山の日」**

山の日を中心に県内外の方々が山に親しめるような様々なイベントを紹介しています。

**FSC森林管理認証**

県有林は、持続可能な森林経営をさらに推進していくためにFSC森林管理認証を取得、その取組を紹介します。

**山梨県森林審議会**

「山梨県森林審議会」の会議録を公表しています。

**恩賜林について**

3月11日は恩賜林記念日。恩賜林の沿革や恩賜林記念式典などを紹介しています。

**林業・木材産業情報リンク集**

林業・木材産業に関するリンク集です。

## ②『やまなしの環境』

山梨県の環境に関する計画や取り組み、環境団体の情報など次の項目ごとに構成しています。

### 山梨環境基本条例

平成16年4月1日に施行した「山梨県環境基本条例」です。

### 山梨県環境基本計画

「山梨県環境基本条例」で定めた環境の保全及び創造に関する施策の方向等を明らかにした、環境施策に関する基本計画です(平成26年3月に「第2次山梨県環境基本計画」を策定し、令和元年11月に中間見直しを行いました)。

### 環境関連の条例、計画等

- ・山梨県太陽光発電施設の適正な設置及び維持管理に関する条例
- ・山梨県地球温暖化対策条例
- ・山梨県地下水及び水源地域の保全に関する条例
- ・山梨県地球温暖化対策実行計画
- ・やまなしエネルギー環境マネジメントシステム
- ・山梨県生活排水処理施設整備構想
- ・第4次山梨県廃棄物総合計画
- ・山梨県災害廃棄物処理計画
- ・山梨県レッドデータブック
- ・やまなし「水」ブランド戦略
- ・やまなし水政策ビジョン

### 富士山の環境保全

富士山周辺の環境保全に取り組んでいる施設の紹介です。

- ・富士山科学研究所
- ・富士山世界遺産センター
- ・富士山ボランティアセンター

### 山梨県環境保全審議会

自然環境保全法第51条第2項(自然環境保全、鳥獣の保護繁殖及び狩猟、温泉)に関する重要事項及び環境基本法第43条第1項(環境の保全)に関する基本的事項の調査審議等を行う「山梨県環境保全審議会」の開催案内や会議録等を公表しています。

### 環境白書「やまなしの環境」

山梨県における環境の現状とその保全に向けた対策をまとめた環境白書「やまなしの環境」の各年度版を紹介しています。

### 環境NPO・団体の情報

「やまなしNPO情報ネット」では、県内の活動しているボランティア・NPOの情報などを提供しています。

### 環境関係例規集

山梨県の環境に関する条例等を掲載しています。

## ③『やまなし水政策ビジョン』

本県の水政策に関する総合的な指針である「やまなし水政策ビジョン」を掲載しています。

## やまなし水政策ビジョン

「持続可能な水循環社会を目指して」を政策目標として定め、この目標を実現するために、「育水と保全～健全な水循環の維持～」、「魅力発信と活用～水を活かした地域・産業の振興～」、「連携と相互理解～水を通じた交流の活性化～」、「暮らしと防災～安全な水の確保と暮らしを守る治水の推進～」の4つの基本方針に基づき、健全な水循環系の構築と水を活かした地域振興を図るための指針として、平成25年6月に策定しました(従来の「山梨県水政策基本方針」は、「やまなし水政策ビジョン」の内容として引き継がれました)。

## (2) 環境情報提供事業(環境ライブラリー事業)(自然共生推進課)

県民が環境問題に関心を持ち、実践活動に参加し、環境に配慮した生活スタイルへの転換が進むよう、「環境情報コーナー」の設置、パネルやビデオテープの貸出しなど「ライブラリー事業」を実施しています。

## ○内容(令和2年度実施内容)

- ・パネル等の貸出し
- ・移動情報コーナー(パネル、環境にやさしい商品等の展示)
- ・ビデオライブラリー
- ・パンフレットの提供

## 6-2 環境モニタリング・環境科学研究の推進

## 1 主な環境モニタリングの内容(大気水質保全課)

県が実施する主な環境モニタリングの内容は、次のとおりです。

## (1) 大気汚染常時監視

大気汚染防止法に基づき大気汚染の状況を把握するため、一般環境大気測定局10局及び自動車排出ガス測定局2局の合計12局で窒素酸化物や浮遊粒子状物質等による汚染状況を常時監視している。

また、ベンゼン、トリクロロエチレン等の有害大気汚染物質について8地点においてモニタリング調査を実施している。

## (2) 公共用水域及び地下水の水質の常時監視

河川、湖沼の水質の状況を定期的に把握し、各種水質保全施策の基礎資料とするため、53地点においてBOD、CODなどの環境基準項目等の水質調査を実施。また地下水の状況を定期的に把握するため、概況調査を行い、過去の調査により環境基準を超過等し、継続的に監視するためモニタリング調査を実施する。

## (3) ダイオキシン類の調査

ダイオキシン類による一般環境中の汚染状況を把握するため、大気3地点、公共用水域6地点、地下水10地点及び土壌7地点の調査を実施(令和2年度)。

## (4) 騒音・振動の調査

幹線道路沿道地域の生活環境の保全を図るため、自動車騒音の常時監視を行う。

## (5) 地盤沈下の調査

地盤沈下を未然に防止するため、一級水準測量調査や地下水位観測を行い地盤沈下の状況を把握する。

大気汚染常時監視、公共用水域及び地下水の水質の常時監視、ダイオキシン類の調査、騒音・振動及び地盤沈下に係る調査結果については、「2 安心・安全で快適な生活環境づくり」及び資料編に掲載しました。

## 2 富士山科学研究の推進

### (1) 富士山科学研究所の取り組み(富士山科学研究所)

富士山科学研究所は、日本のシンボル・富士山に様々な角度から光を当て、世界共有の財産として“守り”、“活かす”ための方策を科学的に追求しています。平成9年に開所した山梨県環境科学研究所で積み重ねた研究の成果に根ざし、さらに富士山の知を集積し、その情報・成果を発信しています。

研究活動は、研究部を構成する「自然環境科」、「環境共生科」及び「富士山火山防災研究センター」の各研究部門において、富士山に関する研究に対してプロジェクトチームを構成し戦略的に取り組む「富士山研究」、研究者が地域環境について基礎的な研究として取り組む「基盤研究」、並びに総合理工学研究機構が統括する領域横断的な共同研究や緊急性の高い行政課題に対応するために取り組む「成長戦略研究・重点化研究」、「特別研究」などを進めており、その成果を着実に積み重ねてきています。主な研究活動の状況は次のとおりです。

富士山研究	富士山森林限界における植生の地理的分布に関する研究	H	28	～	R2
	火山監視観測システムの富士山への最適化とその情報発信に関する研究	H	30	～	R4
	富士火山東麓におけるテフラ層序の再考による噴火履歴の高精度化	R	1	～	R4
基盤研究	大面積方形区を用いた青木ヶ原樹海の森林構造の解明に関する研究	H	29	～	R2
	富士山自然生態系モニタリングにおける衛星データ活用に関する研究	H	30	～	R2
	富士北麓における草食獣3種の種間関係および行動特性	H	30	～	R2
	古地磁気永年変化を用いた富士山噴火履歴の解明	H	30	～	R2
	富士登山者の転倒関連要因の調査および動物モデルによる改善方法の検討	H	30	～	R3
	定点写真を活用した景観問題発見のための基礎的研究	R	1	～	R3
	弾道放出岩塊の挙動解明と建築物への影響に関する研究	R	1	～	R3
	放棄草原への草刈導入とシカ除去による植物とチョウの復元に関する野外実験	R	1	～	R4
	世界文化遺産富士山の構成資産を流れる「福地用水」の継承に関する研究	R	2	～	R4
	抗酸化物質の摂取が富士登山者の急性高山病症状軽減に及ぼす影響	R	2	～	R4
富士山にかかわる自然災害の防災教育支援システムの開発	R	2	～	R4	
成長戦略研究・重点化研究	富士火山北東麓における噴火履歴の解明～湖底堆積物を使ったテフラ層序の高精度化～	R	1	～	R3
	火山防災マップの信頼性向上に資する数値シミュレーション技術の高度化	R	2	～	R4
特別研究	山中湖・河口湖の水質浄化のための基礎的研究	H	30	～	R2

### (2) 森林総合研究所(森林総合研究所)

森林総合研究所は、昭和10年に林業試験場として設立され、その後、林業研修所、林産事務所、林木育種場等を統合した林業技術センターを経て、平成6年から山梨県森林総合研究所として、森林、林業、林産業に対する新たな時代の要請に対応しています。

森林の持つ環境保全や木材生産をはじめとする多面的機能をより高度に発揮させるための調査研究を行うとともに、再生可能資源である木材やきこ類をはじめとする森林副産物の有効活用技術、効率的な

木材生産作業システムの確立、木質バイオマスの有効活用技術の開発に取り組むなど、幅広い行政課題に対応しています。試験研究活動の状況は次のとおりです。

研究目標	部門	研究テーマ	期間
森林資源の造成と管理技術の確立	生産	希少植物等の生息域外保全研究	R1-R4
		さし木によるカラマツ苗の増殖技術の開発	H30-R3
		低コスト更新技術の開発に関する研究	H30-R3
		高齢級人工林の適切な管理技術に関する研究	R2-R5
		新たななきのこ菌床栽培方法の確立	R2-R4
		松くい虫発生予察事業	S61-
		カシノナガキクイムシ生息状況モニタリング	H24-
		竹林を利用したきのこ栽培技術の確立	H30-R2
森林環境保全技術の確立	環境	混交・複層状態の人工林における間伐指針の検討	H29-R2
		山梨県におけるコウヨウザンの植栽可能性に関する研究	R1-R5
		造林地侵入防止柵を活用したニホンジカ捕獲の効率化に関する研究	H29-R2
		カラマツ人工林における水源涵養機能を強化するための森林管理手法の確立	H30-R2
		森林下層植生が土砂流出防止および水源涵養機能に及ぼす影響と植生回復に関する研究	R1-R3
		県有林モニタリング事業	H19-R8
		高標高域等の奥地森林におけるニホンジカの影響評価	R1-R2
		森林環境税モニタリング調査	H25-
		富士スバルライン沿線緑化試験	S43-
		気候変動下での樹木分布移動に及ぼす人工林とニホンジカの影響の解明	H28-R2
		ニホンジカとその個体数管理が森林限界・樹木限界に及ぼす影響の解明	R2-R4
		水源涵養機能の確保に向けたニホンジカと森林下層植生の管理に関する研究	R1-R5
森林資源活用技術の確立	資源利用	山梨県産ヒノキの強度性能の解明	R1-R3
		スギ大径丸太の簡易強度選別手法の開発	R1-R3
		カラマツ材によるCLT(直交集成板)の優位性の提示	R1-R3
		運搬用トラックへの原木グラップル積込みに係る工期調査	H29-
		やまなし次世代林業推進実証事業	H30-R2

### (3) 衛生環境研究所(衛生業務課)

衛生環境研究所は、県関係部局との密接な連携のもと、県民の公衆衛生の向上と、より良い環境の保全を図るとともに、地域における健康危機管理に対応するため、衛生・環境行政の科学的、技術的中核として、調査研究、試験検査、研修指導及び情報の収集・解析・提供を行っています。

環境に関わるものとしては、大気汚染、水質汚濁、廃棄物、土壌汚染、騒音、振動、悪臭、環境放射能、温泉及び環境指標生物等の試験検査や調査研究、技術指導を実施しています。

研究テーマ	期間
富士五湖の特性を生かした湖沼環境教育の提案	R1～R2
山梨県の河川水、農業用水における溶存ケイ酸濃度調査	R1～R2
イネ科及びブタクサ花粉の飛散状況等に関する研究	R1～R2
本県産ミネラルウォーターの特性に関する見える化研究	R1～R2
下水処理場放流水を用いた薬剤耐性菌遺伝子のモニタリング	R2

下水処理場放流水及び放流水由来腸管系病原菌の解析	R2
県内名水中のPFOS、PFOA濃度の把握	R2～R3
富士・東部地域の温泉資源動向調査	R2～R4

#### (4) 産業技術センター(産業振興課)

産業技術センターは、県内企業の発展と経済振興のため、技術支援、研究開発、人材育成、情報提供、技術移転・事業化支援を5つの柱とし、県内企業支援を行っています。環境に関しても企業の環境保全活動を支援するとともに、水素・燃料電池に関する研究や農産物の残渣を有効利用した研究、天然素材に発熱保温効果を付与する研究にも積極的に取り組んでいます。

試験研究機関	研究テーマ	期間
産業技術センター	固体酸化物系燃料電池用耐熱めっきの研究開発	R1～2
	CNF技術を活用した素材開発	R1～3
	光吸収発熱保温製品の熱移動特性	R1～2

#### (5) 農業関係試験研究機関

##### ア 総合農業技術センター(農業技術課)

環境と調和した農業生産技術の開発のために、家畜ふん堆肥などの有機物由来肥料の活用試験や環境への負荷低減を図るため野菜類の有機栽培の実証、土壌の適正な養分管理技術について研究を行っています。

また、効率的な病害虫防除法の確立について検討するとともに、県内農耕地土壌の理化学性及び農薬の適正使用に関する調査を行っています。

さらに、土壌の炭素量を増加することで、人の経済活動によって発生する大気中の二酸化炭素の増加を抑制するという考え方に基づく国際的な取り組みである「4パーミル・イニシアチブ」に日本の都道府県で山梨県が初めて参加し、炭素貯留方法として果樹園から出る剪定枝を炭化した「バイオ炭」や草生栽培等を利用する研究や現地実証を実施しています。更にこの取り組みにより生産された農産物等を認証し、新たなブランドとして幅広くPRする取り組みを開始しました。

##### イ 果樹試験場(農業技術課)

果樹の減農薬栽培技術として、化学合成農薬に替わる手法(耕種的・物理的防除、フェロモン剤、土着天敵、ボルドー液をはじめとする有機農産物の日本農林規格で使用可能な農薬等)を用いた総合的な病害虫防除法に関する試験研究を行っています。

また、環境変動や温暖化による土壌環境の悪化や果実品質の低下に対応可能な土壌管理法や施肥法を検討しています。さらに、環境負荷の低減に向けて、土壌中の窒素を過剰に蓄積させないため、ブドウの土壌診断基準の作成に関する試験研究を実施しています。

##### ウ 畜産酪農技術センター(畜産課)

温暖化による暑熱に対応した、豚の繁殖技術改善や鶏卵生産技術向上についての研究や、気候変動に対応した牧草サイレージ調整技術についての研究を行っています。

また、除草剤の使用量を抑えた飼料用トウモロコシの生産技術についての研究や、環境負荷を低減する養豚汚水処理技術についての研究を行っています。

試験研究機関	研究テーマ	期間
総合農業 技術センター	トマト茎葉残さ処理を組み合わせた土壌還元消毒技術の確立	H30～R2
	県内主要土壌の地力の推移と変化要因の把握	S54～
	有機物施用土壌における地力窒素の評価	S50～
	新農薬の効果査定	S54～
	薬剤に対する耐性菌及び感受性低下害虫のリスク管理	H26～
	バイオ炭を用いた土壌炭素貯留によるCO <sub>2</sub> 削減効果の検証	R2～R4
	本県の野菜栽培における生分解マルチの適応性試験	R2～R5
	有機質資材による持続可能な農業技術の確立	R2～R6
果樹試験場	果樹園の土壌管理等による果実安定生産技術の確立	H30～R4
	環境に配慮した病害虫防除法の改善（有効薬剤の検索及び防除法の改善）	H25～
	ブドウ園土壌における可給態窒素診断基準の作成	R2～R4
畜産酪農 技術センター	暑熱時における卵重増加のための栄養調整技術の開発	H30～R4
	暑熱時における母豚の繁殖改善技術の開発	R1～R3
	気候変動等に対応した牧草サイレージ調整技術の確立	R1～R3
	不耕起および簡易耕を活用した飼料用トウモロコシの省力栽培技術	R2～R4
	硝酸性窒素等の規制強化に対応した養豚汚水処理技術と浄化植物の利用技術の確立	R2～R4

### エ 水産技術センター（食糧花き水産課）

魚類生息環境の保全に関する試験研究調査や希少魚に関する調査研究を行うと共に、関係者へ指導普及を行っています。

試験研究機関	研究テーマ	期間
水産技術センター	魚食性鳥類による被害の軽減技術対策	H28～R5
	外来魚の資源生態調査及び駆除技術の開発	H 9～R5
	クニマスの保全及び養殖技術に関する研究	H30～R3
	希少魚類生息調査	H21～

## 6-3 国際協力の推進

### 1 国際環境交流事業（富士山科学研究所）

富士山科学研究所は、本県の将来を見据え、予見・予防的な視点に立った環境行政を支援することを基本姿勢として、「研究」「教育・情報」「広報・交流」の各機能を通じて、自然と人との生活が調和した地域の実現に向けて事業を展開しています。「広報・交流」においては、富士山・環境をテーマとして人や情報の交流を活発にするため、県民の方々や地域との交流、国内外の研究者、研究機関との交流機会等を提供しています。毎年国内外の研究者を招聘し、一般向けに実施している国際シンポジウムについて、令和2年度は「被災者の健康被害を考える」のタイトルで開催の準備を進めていましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しました。

## 【参考】

### 令和元年度実績

#### 国際シンポジウム 2019

- 開催日 令和元年 11 月 30 日
- テーマ 「火山噴火とリスクコミュニケーション」
- 開催場所 富士山科学研究所 ホール
- 内 容

住民や市町村の防災担当者を対象とし、国外の研究者による講演に加え、活動的な噴火を繰り返している桜島を持つ鹿児島市や警戒レベルがあがった箱根火山をもつ箱根町、大きな災害となった2014年の御嶽山の噴火の際対応した長野県庁の防災担当者からの講演とともにパネルディスカッションを開催し議論した。

#### [第1部 火山噴火とリスクコミュニケーション –国内外の事例から–]

- 講演1 「北スラウェシ州・カラングタン火山災害の危機管理から学んだ教訓」  
Andreastuti Supriyati (インドネシア 火山地質災害軽減センター)
- 講演2 「御嶽山噴火災害への対応」  
南沢 修 (長野県木曾建設事務所)
- 講演3 「コロンビアで学ぶ火山との共存」  
Marta Lucia Calvache (コロンビア地質調査所)
- 講演4 「大規模噴火でも「犠牲者ゼロ」を目指して」  
中 豊司 (鹿児島市危機管理局危機管理課)
- 講演5 「ハワイ・キラウエア火山2018年噴火：噴火時に何が起こり、どう対応したか？」  
James Kauahikaua (アメリカ地質調査所 ハワイ火山観測所)
- 講演6 「箱根山で2015年に発生した小規模水蒸気噴火への対応とその後の対策」  
菊島信洋 (箱根町総務部総務防災課)

#### [第2部 パネルディスカッション]

- コーディネーター：藤井敏嗣 (富士山科学研究所 所長)
- パネリスト : James Kauahikaua (USGS ハワイ火山観測所)  
Marta Lucia Calvache (コロンビア地質調査所)  
Andreastuti Supriyati (インドネシア 火山地質災害軽減センター)  
南沢 修 (長野県木曾建設事務所)  
中 豊司 (鹿児島市危機管理局危機管理課)  
菊島信洋 (箱根町総務部総務防災課)  
伊藤和貴 (気象庁 地震火山部火山課)

#### 国際ワークショップ 2019

- 開催日 令和元年 11 月 28 日
- テーマ 「火山噴火の危機管理」
- 開催場所 都道府県会館(東京) 101 大会議室
- 内 容

ハワイやコロンビア、インドネシアなど近年大きな火山災害があった国の研究者を招き、火山噴火の危機管理というテーマのもと国内外のトップレベルの研究者や防災担当の行政担当者な

どが国内外での事例について講演を行うとともに、パネルディスカッションにて議論を行った。

[第1部 火山噴火の危機管理 –国内外の事例から–]

- 講演1 「ハワイ・キラウエア火山2018年噴火：噴火時に何が起こり、どう対応したか？」  
James Kauahikaua (USGS ハワイ火山観測所)
- 講演2 「日本における火山防災の取組」  
古市 秀徳 (内閣府 政策統括官 (防災担当) 付企画官)
- 講演3 「火山と共に生きる～コロンビアにおける経験より～」  
Marta Lucia Calvache (コロンビア地質調査所)
- 講演4 「2015年口永良部島噴火前後の活動からみた危機管理のあり方に関する考察」  
井口正人 (京都大学防災研究所 火山活動研究センター)
- 講演5 「北スラウェシ州・カラングタン火山災害の危機管理から学んだ教訓」  
Andreastuti Supriyati (インドネシア 火山地質災害軽減センター)
- 講演6 「箱根火山2015年噴火とリスクコミュニケーション」  
萬年一剛 (神奈川県温泉地学研究所)

[第2部 パネルディスカッション]

- コーディネーター：中田節也 (国研) 防災科学技術研究所 火山研究推進センター センター長)
- パネリスト : James Kauahikaua (アメリカ地質調査所 ハワイ火山観測所)  
Marta Lucia Calvache (コロンビア地質調査所)  
Andreastuti Supriyati (インドネシア 火山地質災害軽減センター)  
古市 秀徳 (内閣府 政策統括官 (防災担当) 付企画官)  
清水 洋 (九州大学、火山噴火予知連絡会 会長)